

岩屋緑地に親しむ会（愛知県豊橋市）

森づくりから生まれた 人々との交流

いわりよくち したしむかい
岩屋緑地に親しむ会

会長

にしかわ しゅうじ
西川 収示



1 豊橋市の概要

豊橋市は人口約 38 万人を擁する都市です。愛知県の東南部に位置し、東は弓張山地を境に静岡県と接し、南は太平洋、西は三河湾に面しています。

温暖な気候と大消費地が近いことから全国有数の農業産地となっています。また一方で、三河港には多くの外資系企業が進出しており、総合物流港湾として今後ますます発展が期待されています。

市内には伝統的な祭礼や文化財も数多く存在し、魅力的な地域の財産として市民に親しまれています。

2 活動開始の背景・経緯

「岩屋緑地に親しむ会」の活動拠点は、豊橋市東部の丘陵地にある岩屋緑地公園で、山裾には旧東海道が通っています。近くには、東京都の日本橋から数えて 33 番目の二川宿もあります。緑地内の大蔵山（標高 100m）の頂上には市街地が一望できる展望台があり、岩屋山（標高 60m）には聖観音像が立っています。春には多くの花が咲き、秋にはどんぐりを中心に木の実がたくさんなり、林床には多くのきのこが発生します。また、渡りのコースであるため野鳥も数多くみられます。

岩屋緑地の周りは視聴覚教育センター、地下資源館、豊橋総合動植物公園、二川宿本陣資料館などの公共施設が多く存在し、教育環境にも恵まれた文教地区となっています。

岩屋緑地に親しむ会は、豊橋市主催の市民大学トラム「里山管理ボランティア養成講座」を受講した仲間を中心に平成 13 年 4 月に発足し、その後は趣旨に賛同してくださる多くの仲間を迎え入れて活動しています。

当会の発足とほぼ同時期に岩屋緑地公園では豊橋市が老朽化した施設の再整備を行い、展望台、大型遊具、エコトイレ等を設置しました。その

際、当会では林内の整備と散策路の設置、その後の林内の環境保全に協力することとなりました。

3 発足当時の取り組み

当時、岩屋緑地の林内は風通しの悪い暗い森でしたので、当会の発足と同時に、会員総出で松枯れ木や下層木の伐採整理に取り組みました。枯木、枯れ枝、下層の常緑樹を除去した結果、子供たちも安心してカブトムシ、どんぐり、きのこなどに身近に触れ合えるような明るい森になりました。



手入れ前の荒れた緑地内

伐採整理作業に続いて、手入れした森の入り口となるよう新しく散策路を作りました。この散策路の整備をきっかけとして、後述する市民参加イベントの開催や学校への学習支援の企画実施など、市民や学校との交流事業を行うようになりました。

平成 16 年には（財）都市緑化基金より助成金を受け、手作りの散策路「ときめきの小径」を整備し、お年寄りや子供たちに利用していただいております。

4 森づくりと環境整備

現在、当会では緑地内に「四季ときめきの森」「古里やすらぎの森」「竹林の森」という 3 つの森を設定し、重点的に手入れをしています。

①四季ときめきの森

どんぐりの木を中心に、子供たちがいきいき活動し、観察できるエリ

アです。

②四季ときめきの森

どんぐりの木を中心に、子供たちがいきいき活動し、観察できるエリアです。

「ときめきの小径」はこのエリアの中心通路で、市民や子供たちの活動通路となっていて、森の中を常に安全で明るい場所にすべく、枯れ木、枯れ枝を整理し、チップperにてチップを作り、散策路に撒いて通路を保守しています。この場所の一部に「コナラ・ヤマザクラ再生試験林」を設け、里山の保守・育種作業の見本としています。古木をすべて切り倒し、緑地内で採取した種を育て、市民参加のイベントで植樹をお願いしています。また子供たちの自然観察会等もこの森を中心に行われます。



会員がチップを散策路に撒いて整備



手作りの散策路「ときめきの小径」

③古里やすらぎの森

この森は、かつて岩屋緑地がアカマツ林であった面影を一部に残した森で、緑地内の北部に位置しています。当初 20～30 本ほどの松が残って

いましたが、松くい虫の被害に会っており、近い将来、全滅する運命にあると思われます。ただ、うれしいことにここは他の樹木の生育が遅れていたため、林床に実生のアカマツの幼木が多く発生しています。また、周りの草等も刈り取りを行うなどこの場所を「アカマツ再生林」と名づけ、将来はマツタケが取れる森にすべく管理・育種をしています。

④竹林の森

孟宗竹が生えているエリアです。近年どこの里山でも竹の繁茂が問題になっていますが、岩屋緑地もこれ以上の拡大を抑えるため、管理区域を竹柵で明確にしました。竹林内部では、タケノコ発生時の除去を行うほか、冬場に5~7年生の竹を除去して柵内の本数を管理しています。春先に除去したタケノコは、市民の皆様にお分けし好評を得ています。

5 市民との交流

岩屋緑地は市民の憩いの場所であり、当会としても様々な活動を通して市民や学校等との交流を大切にしています。

①花交流フェアへの参加

初夏に催される豊橋市主催の「花交流フェア」に当会も参加し、きのこ汁・おこわの提供、子供たちに木の輪切りのネックレスや押し葉のしおり等を体験してもらっています。

②きのこ展

秋には、岩屋緑地に隣接する視聴覚教育センターにて三河・遠州地方の野生きのこを集めて紹介する、当会主催の「きのこ展」を2日間開催しています。

③どんぐりときのこまつり

緑地内で発生するきのこの観察と、各種どんぐりの実を採取して活用する子供を対象にしたイベントです。最後にどんぐりの重さ、長さ、太さを測定し各分野のチャンピオンを選び表彰するのですが、賞状をもらった子供の笑顔がステキです。(ただし、子供たち全員に敢闘賞の賞状を渡します。)

⑤きのこの菌打ち体験

3月の初めに行います。当会の設立当時の一番参加者の多い人気イベントです。シイタケを主体とし、ナメコの菌打ちも体験できます。他

に見られない特徴としては、当会の仲間「きのこアドバイザー」がいて、懇切丁寧に解説と指導を行っているところです。

⑤学校等との交流

幼稚園から中学校まで多くの子供たちが岩屋緑地に訪れたり、また逆に我々が学校を訪問して学習の支援活動をしています。

豊橋市中心部の幼稚園は、毎年夏休みに70名程度がバスで緑地に訪れ、きのこを見つけたり、池でザリガニ採りやめだか採りなど一日中目いっぱい遊んで帰ります。

二川・幸小学校の1年生は、どんぐりのこま、ネックレス等を作ったり、池でザリガニやめだかを捕まえます。二川・飯村小学校の3、4年生は、緑地の植物や社会的事象を我々の案内で調べ上げ、壁新聞にまとめます。多米小学校の5年生は、学校の教科である稲作作りに挑戦し、収穫したお米を使って我々と一緒に五平餅を作ります。

二川中学校では、11月末に所有する学校林の下草刈りや枯れ枝整理等を生徒と当会のメンバーが一緒に行います。東部中学校では、コミュニティ大学の中の講座において我々の仲間が6回講師を受け持ち、岩屋緑地の自然を案内し解説しています。



小学生との五平餅づくり

6 もう一つの顔、二川まちおこし

二川は、江戸時代の宿駅制度によりまちづくりされた東海道五十三次の33番目の宿場町です。第二次世界大戦中も戦災にあわず、江戸・明治時代の町並みが残されました。昭和後期に大型店舗が郊外に進出してから廃業する商店が増え、一気に町並みはさびれていきましたが、平成に入り、豊橋市により街道筋の本陣の復元工事が行われ、二川宿本陣資料館が建設されました。当会では岩

屋緑地内から除去した竹を活用して、本陣の入り口などに3m近い門松を立てたり、江戸時代の街道町家に建てられていた門松等を再現して本陣に飾り付けをするなど地元の話づくりに努め、本陣まつりの大名行列や五節句の飾り付けにも協力させていただきました。

3年前からは当会のメンバーが中心になり「灯籠で飾ろう二川宿」というイベントを立ち上げ、地域の住民と一緒に二川の町並み1.5km両側に3000個余の大小様々な灯籠を並べました。歩行者天国となった旧東海道二川宿の町並みは16,000人の見学者で埋め尽くされました。この灯籠まつりには、地元の幼稚園児や保育園児、小学生、中学生たちが全員灯籠を作成して参加しているほか、地域住民や市民にも「マイ灯籠」という方式を取り入れて参加していただいています。また地元企業・商店にも協賛金をいただき協力してもらっています。参加者自らが企画・運営する手作りのイベントです。



二川宿の街並みを飾る灯籠

7 今後の展望

活動を13年続け、緑地内の雑木や枯木が整理され、明るく見通しのよい林内となった岩屋緑地。市民の力で管理運営されているこの緑地の素晴らしさをより多くの方に知っていただくために様々な形で情報発信し、豊橋市内だけでなく、市外からもたくさんの人が訪れる憩いの公園にしていきたいと考えています。

また「灯籠で飾ろう二川宿」といったイベントのように、当会のメンバーが岩屋緑地だけの活動にとどまらず今よりもさらに活動の幅を広げ、「地域の人材供給の場」となって地域のまちづくりに寄与していきたいと思っています。